

## 決算特別委員会教育民生分科会・分科会長報告

令和2年9月29日(火)

決算第1号「令和元年度松江市一般会計歳入歳出決算」中の質疑で主なものは、

・特別支援学級における自閉症や情緒障がいの児童生徒数が増えていて、現場では介助員の配置の要望をされており、平成30年から令和元年には特別支援学級介助員を2名増やしているが、学校ではまだ足りない状況であるのかとの質疑に対し、執行部より、特別支援学級の生徒は、令和元年が401人、今年度が448人となっており、47人増えている。特別支援学級介助員は5人以上、1クラスに在籍する特別支援学級に配置するもので、1クラス当たりの人数も非常に増えてきている状況であり、精査の上、適切に判断し配置をしていきたい。今後も特別支援学級の児童生徒は増えていく傾向にあると考えている。

・障がいのある児童生徒が増える要因についての質疑に対し、執行部より、現状分析としては、コミュニケーションや集団参加が苦手である、感覚過敏であるなどの子どもたちが増えている傾向にある。その中で松江市は、5歳児健診を実施しており、発達上の早期の気づきの促しというシステムの中で、早い時期から集団生活がしづらい等の子どもさんや親御さんに対する適切な相談支援を行っていることも、特別支援学級の在籍児童生徒が増えている一つの要因だと考えている。

・図書館事業の充実というのは非常に関心のあるテーマであり、毎年決算を見るたびになかなか予算が増えないことに不満である。図書館のあり方検討委員会において、論点を6つ設けられて、検討委員会で意見をとりまとめてこられたが、1点目の論点として現在の松江市立図書館に対する市民の思い(イメージや印象)について、どのような意見が出たのか。また、蔵書数が一貫して減っているが、何か理由があるかとの質疑に対し、執行部より、検討委員会における意見では、1つには、現在の中央図書館の駐車場が使いにくい。2つ目には、独立した児童スペースがないので、子ども連れの親御さんは使いにくい。3つ目には、学習室の設置を望む意見、その他、レファレンス及び情報発信の強化を望む意見などがあつた。

・蔵書冊数の減少については、近年、市立図書館では、貸し出しがないような本であるとか、県立図書館と重複している図書など、保存しておく必要がない図書の除籍を進めてきた結果である。

・部活動指導員配置事業についての質疑に対し、執行部より、部活動指導員については、部活動指導に係る時間を軽減し、教員の教材研究や生徒指導の時間を確保するということで配置している。また、部活指導員は第三中学校、湖南中学校、湖東中学校、湖北中学校の4校に配置しており、賃金については、時給1,600円としている。この財源として国、県、市がそれぞれ3分の1を負担している。

・要配慮者支援推進事業については、令和5年の数値目標を、世帯カバー率70パーセントとしているが、この目標値に対し、令和元年の実績では設立組織数200組織、世帯カバー

率 37.9 パーセントと努力してこられた結果ではあるが、実績に対する評価はどうかとの質疑に対し、執行部より、組織化については新型コロナウイルス感染症の影響もあり少し遅れているが、公民館単位等の大きな組織での設立と町内会単位の小さい単位での設立により重層的な支援をしていく必要があるのではないかと考えている。

- ・松江市と周辺 4 市における路線バスの運賃支払いに交通系 IC カードが今後導入されると、障がい者等を対象としたバス運賃を無料とする優待バスカード方式での運用は難しくなると考えるが、交通系 IC カードに移行する場合、制度運用についての検討はされているのかとの質疑に対し、執行部より、交通系 IC カードが導入されても、当面は現在の優待バスカードとの並行利用が可能と聞いている。令和 3 年度までバスカードが使える状況となっているので、制度運用については今後詰めてまいりたいと考えている。

- ・がん検診事業において、決算に対する課題で AYA 世代に対する啓発や支援体制づくりを検討していく必要があるとしているが、決算から見てどのような施策展開を図っているのかとの質疑に対し、執行部より、AYA 世代のがん患者のうち、特に女性のがん患者が多く、中でも子宮頸がんの患者が多いことから、令和 2 年度から子宮がん検診の受診費用の軽減ということで、HPV 併用検診の受診料 1,800 円としていたものを 1,100 円軽減し、700 円としている。

- ・松江市における幼稚園、保育所等における運動効果についての質疑に対し、執行部より、公立の幼稚園児に対して毎年 25 メートル走や立ち幅跳び、ボール投げといった種目で体力テストを行っており、令和元年度は 10 年前に比べて記録が低下しているということが分かっている。文部科学省の幼稚園教育要領や幼児期運動指針では、幼児期は楽しく体を動かす時間を確保し、主体的に運動してみたいと思う場作りが必要であるとしている。この考えを踏まえ、昨年度は市内の幼稚園、保育所、認定こども園の職員を対象に体力づくりに関する研修を実施しており、市としても子ども自ら運動してみたいと思う場づくりに引き続き努めてまいりたいと考えているなどの質疑に対する答弁がありました。

決算第 5 号「令和元年度松江市介護保険事業特別会計歳入歳出決算」では、質疑はありませんでした。

決算第 9 号「令和元年度松江市母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計歳入歳出決算」は、質疑に対し、執行部より、

- ・貸付金の滞納整理については償還指導員により償還指導を行い回収に努めている。また、新たな未収金が発生した場合には、早期に償還指導を行い、滞納の抑制に努めているとの質疑に対する答弁がありました。

決算第 14 号「令和元年度松江市病院事業会計決算」は、質疑で主なものは、

- ・病院の経営改善についての質疑に対し、執行部より、総合支援センターを設置し、入院前

から退院後の在宅復帰までを見据えた支援機能を整備したことにより、短期間でスムーズな退院が行われるようになった。今後、さらに高度で専門的な医療を提供し、他の医療機関との機能分担や連携の取り組みを継続していきたい。

- ・医療事務など委託業務の見直しによる費用の削減についての質疑に対し、執行部より、診療データの管理分析などを直営で行うことにより、約 2,000 万円の削減につながった。

- ・委託職員に対する研修についての質疑に対し、執行部より、病院職員と同じ思いで業務を行っていただくよう、定期的に研修や勉強会なども実施しているところである、

- ・ECMO(エクモ)に関する質疑に対し、執行部より、ECMO による感染治療をするための人員については、呼吸器専門医、ICU 専門医、臨床工学技士、看護師などによる体制をとっている。また、機器については 2 台保有しており、うち 1 台は予備として置いているなどの質疑に対する答弁がありました。

以上で、決算特別委員会教育民生分科会の報告を終わります。